

福岡県における宗像漁業協同組合の資源管理協定

協定締結日 令和6年2月19日
 協定認定日 令和6年2月19日

(目的)

第1条 本協定は、宗像漁業協同組合に所属する漁業者によって漁獲される水産資源の管理に関して、当該水産資源の資源管理の方向性の達成を目的として、本協定に参加している者（以下「参加者」という。）により、当該水産資源に関して自主的な資源管理の目標を定め、当該資源管理の目標の達成のために具体的な取組を行うことで、もって当該水産資源の保存及び管理を図るものである。

(本協定の対象となる水域、水産資源の種類及び漁業の種類)

第2条 本協定の対象となる水域、水産資源の種類、漁業の種類は、それぞれ次のとおりとする。

	水域	水産資源の種類	漁業の種類
(1)	筑前海区地先海面	マアジ、サワラ、クロマグロ	つり漁業
(2)	筑前海区地先海面	ヒラメ、ブリ	さし網漁業
(3)	筑前海区地先海面	ケンサキイカ	いか釣り
(4)	筑前海区地先海面	コウイカ	いかかご漁業
(5)	筑前海区地先海面	トラフグ、クロマグロ	とらふぐはえ縄漁業
(6)	筑前海区地先海面	ブリ、クロマグロ	しいら漬漁業
(7)	筑前海区地先海面	マアジ、クロマグロ	定置網漁業
(8)	筑前海区地先海面	ヒラメ	小型底びき網漁業

(資源管理の目標)

第3条 本協定における資源管理の目標は、次のとおりとする。

クロマグロ（小型魚）	資源管理基本方針（令和2年農林水産省告示第1982号。以下同じ。）別紙第2-1に定める目標
クロマグロ（大型魚）	資源管理基本方針別紙第2-2に定める目標
マアジ	資源管理基本方針別紙第2-5に定める目標
ブリ	福岡県資源管理方針別紙第2-2に定める資源管理の方向性
トラフグ	福岡県資源管理方針別紙第2-3に定める資源管理の方向性
ヒラメ	福岡県資源管理方針別紙第2-4に定める資源管理の方向性
サワラ	福岡県資源管理方針別紙第2-5に定める資源管理の方向性
ケンサキイカ	福岡県資源管理方針別紙第2-6に定める資源管理の方向性
コウイカ	福岡県資源管理方針別紙第2-7に定める資源管理の方向性

(資源管理の目標の達成のための具体的な取組)

第4条 前条の資源管理の目標の達成のための具体的な取組は、それぞれ次表に掲げるところにより行うものとする。

	取組内容
つり漁業	一 毎月1日以上の休漁日を設ける 二 資源管理基本方針及び福岡県の資源管理方針に定められたくろまぐろ（小型魚）及びくろまぐろ（大型魚）に係る資源管理の内容を遵守するとともに、福岡県助言・指導・勧告指針に基づく助言、指導又は勧告の内容を実施するものとする。（強度な資源管理）（鐘崎）
さし網漁業	一 毎月1日以上の休漁日を設ける 二 ヒラメ全長20cm未満の小型魚の再放流に積極的に取り組むこととする。
いか釣り漁業	一 毎月1日以上の休漁日を設ける 二 光力上限制限、産卵保護区域の設定、操業時間の制限に取り組むこととする。
いかかご漁業	一 2月から6月の第2土曜日に休漁する
とらふぐはえ縄漁業	一 3月21日から漁期終期まで休漁する 二 小型魚の再放流・種苗放流等の措置に取り組むこととする 三 資源管理基本方針及び福岡県の資源管理方針に定められたくろまぐろ（小型魚）及びくろまぐろ（大型魚）の内容を遵守するとともに、福岡県助言・指導・勧告指針に基づく助言、指導又は勧告の内容を実施するものとする（強度な資源管理）

しいら漬 漁業	一 毎月1日以上の休漁日を設ける 二 資源管理基本方針及び福岡県の資源管理方針に定められたくろまぐろ（小型魚）及びくろまぐろ（大型魚）の内容を遵守するとともに、福岡県助言・指導・勧告指針に基づく助言、指導又は勧告の内容を実施するものとする（強度な資源管理）
定置網漁業	一 毎年5月から7月のうち12日間の休漁を行う 二 資源管理基本方針及び福岡県の資源管理方針に定められたくろまぐろ（小型魚）及びくろまぐろ（大型魚）の内容を遵守するとともに、福岡県助言・指導・勧告指針に基づく助言、指導又は勧告の内容を実施するものとする（強度な資源管理）
小型底びき 網漁業	一 操業期間のうち、5月から12月の第2、第4月曜日に休漁する

（取組の履行確認に関する事項）

- 第5条 前条の具体的な取組の着実な実施を担保するため、全ての参加者に対して、少なくとも年1回、前条の具体的な取組の履行確認を行うこととする。
- 2 全ての参加者は、前項の履行確認に協力するものとする。
 - 3 第1項の履行確認は、福岡県に設置された資源管理協議会において行うこととする。
 - 4 第1項の履行確認においては、前条の取組については、市場伝票または係船写真、若しくは第三者の休漁証明、位置情報の記録等を基に確認することとする。

（漁獲量等の漁獲関連情報の報告）

- 第6条 全ての参加者は、漁業法（昭和24年漁業法第267号。以下「法」という。）第30条第1項、第58条において読み替えて準用する第52条第1項及び第90条第1項の規定に基づき、漁獲量及び漁獲努力量、資源管理の状況等を都道府県知事に報告するものとする。
- 2 全ての参加者は、協定の実施のために必要とされる履行確認や効果の検証等の情報を積極的に都道府県、資源管理協議会に報告するものとする。

（取組の効果の検証に関する事項）

- 第7条 第5条の具体的な取組の対象魚種の保存及び管理に対する有効性を確認するため、本協定の有効期間の2分の1を経過した時及び当該有効期間の終了時に、本協定の取組の効果の検証を行うこととする。
- 2 前項の規定にかかわらず、対象魚種の資源評価が行われた結果、資源管理基本方針及び福岡県資源管理方針において重大な変更があった場合には、当該変更があった日から1年以内に検証を行うこととする。
 - 3 前2項の検証は、直近の資源評価の結果及び前条で報告された情報その他参考となる科学的知見に基づき、福岡県に設置された資源管理協議会において行うこととする。

（協定に違反した場合の措置）

- 第8条 参加者による資源管理の目標の達成のための具体的な取組、当該具体的な取組の履行確認への協力その他の本協定及び本協定の規定に基づく要領、規約等の内容に対する違反の疑義が認められた場合には、当該違反の疑義の内容について福岡県に設置された資源管理協議会に報告し、調査及び協議することとする。
- 2 前項の調査及び協議の結果、違反したことが明らかになり、かつ、その違反の程度が重大なものであった場合には、当該参加者の本協定の遵守が要件となる国及び福岡県からの補助を受けることができないこととする。この場合において、当該補助を受けることができない期間は、違反をした年度とする。

（本協定の代表者）

- 第9条 本協定の代表者は宗像漁業協同組合の代表理事組合長が務めるものとする。

（協定への参加及び協定からの脱退）

- 第10条 全参加者の代理権を有する者（以下「協定代表者」という。）は、本協定に参加しようとする者に対して、参加届出書により参加する旨の届出を行わせるものとする。この場合において、本協定への参加は、協定代表者が当該参加届出書を受理した時点で行われるものとする。
- 2 参加者の住所又は氏名若しくは名称に変更が生じたときは、当該参加者は、協定代表者に対して、変更届出書により当該変更の内容の届出を行うものとする。
 - 3 参加者が本協定を脱退しようとする場合には、当該参加者は、協定代表者に対して、脱退届出書により当該協定からの脱退を申し出るものとする。この場合において、本協定からの脱退は、協定代表者が当該脱退届出書を受理した時点で行われるものとする。

(協定の有効期間)

第 11 条 本協定の有効期間は、協定施行の日から 5 年間（令和 6 年 2 月 19 日から令和 11 年 2 月 18 日まで）とする。

(あつせんすべきことを求める場合の手続き)

第 12 条 法第 126 条第 1 項の規定に基づき福岡県知事にあつせんすべきことを求める議事は、参加者の 3 分の 2 以上の多数で決する。

(その他)

第 13 条 本協定に定めのない事項については、参加者間で協議し、決定するものとする。

附 則

本協定は、令和 6 年 2 月 19 日から施行する。

(本協定の参加者)

別紙のとおり

(以上)